

ロボット博士とパラ水泳を両立 CYBERDYNEの遠山さん－人物ファイル

2023/03/01 19:50 日本経済新聞電子版 910文字

水しぶきを上げながらプールを勢いよく進むスイマー。水をかくのは右腕だけだ。遠山弘晃さん（28）は小学生のころの事故で利き手だった左腕に重度マヒの障害が残ったが、2022年11月開催の「第39回日本パラ水泳選手権大会」に出場。初挑戦でいきなり平泳ぎで優勝し、注目を浴びた。

遠山さんは介護などに使う装着型ロボット開発のスタートアップ、サイバーダインの研究者だ。腕と同じ大きさで持ち運びができ、机の上にも置ける生活支援ロボットアームの開発を手がける。

微弱な生体電位信号で思い通りに動き、腕が不自由な人の生活を助ける。「片腕が使えないと、瓶の蓋を開ける時に支えながら回せない。日常の不便をテクノロジーで解決し、両手で作業をしている感覚を取り戻せる」と話す。

子供のころ親しんだ水泳を再開したきっかけは新型コロナ禍だ。「友人と会う機会も減り、一人でもできる水泳を思いついた」。試しにタイムを計ったところ「意外に速かった」。「競技水泳に向いているかも」と考え、入社した22年4月から本格的に練習を始めた。

トレーニングは週4回。茨城県つくば市内のプールで泳ぐ。専門は平泳ぎ。サブ種目は自由形だ。ただ、「片腕だけで泳ぐとまっすぐ前には進めない」。バランスをとるため「右手で水をかくとき、左足の蹴り出しを調節しながら泳ぐ」など工夫する。

22年秋開催の「日本パラ水泳選手権大会」では、100メートル平泳ぎ（SB8）で優勝。50メートル自由形（S8）で3位の好成績を収めた。「初挑戦で1位はまさかという思い。びっくりした」と笑う。

力の源は「一度きりの人生だからとにかく楽しもう」という思いだ。五輪・パラリンピック大会への出場も視野に入る。遠山さんの自己ベストは、平泳ぎが1分34秒24。アジアパラリンピック出場には参加標準記録の1分48秒66、派遣標準記録1分19秒45の両方を超える必要がある。日本記録は1分17秒43だ。



日本パラ水泳選手権大会の100メートル平泳ぎ（SB8）に初出場し金メダルに輝いた



生活支援ロボットアーム（左）を研究する遠山さん。片腕だけでは困難だったボトルの蓋も簡単に開けられる（つくば市）

「ロボット博士と水泳選手になるのが夢だった」という遠山さん。夢の実現に向けて一步一步着実に進んでいる。（伏井正樹）
とおやま・ひろあき 1994年長野県飯田市生まれ。筑波大学大学院博士後期課程修了。2022年4月から現職。



まっすぐに進むため、手と足のかき方のバランスをとって泳ぐ（つくば市）

許諾番号30092183 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.